

公益社団法人日本山岳会埼玉支部 2023年（令和5年）度 活動方針

今年1月、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更（新型コロナウイルス感染症対策本部）が発表された。それによると、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について、5月8日から「感染症法」上の新型インフルエンザ等、感染症に該当しないものとし、5類感染症に位置づける。

この変更に伴い、屋外・屋内におけるマスク着用の規制が緩和されるが、基本は個人の判断に委ねるといふ。いつまで新型コロナウイルスに翻弄されるのであろうか。

一方、われわれの置かれた登山環境も、3密（密閉・密集・密接）の回避、等々。登山における宿泊先も手洗い、マスク着用と大きな変貌を経験し、その場面毎の対応についても定着してきました。

このような先行き不透明な状況下ですが、4月2日（日）、埼玉県障害者スポーツ協会と共催する大久保春美記念・第13回「ふれあい登山」は、東武東上線小川町駅から官の倉山を予定しています（注：実施済）。

公益事業として評価も高く、登山を通して障がい者と交流する貴重な機会でもあり、社会貢献事業として支部を特徴づけるイベントです。

また、一般登山者を対象にした登山教室の第5期「埼玉やま塾」は、新型コロナウイルス対策を講じて「机上講習会」、「登山実技」を開講します。次代の組織運営を担う会員の誕生に繋がりたいからです。

日本山岳会120周年記念事業の「全国山岳古道調査」も着実な成果を重ねています。本年も埼玉の歴史と古道に関する研究者を講師に招いて講演会を開催予定です。古道調査活動については、支部会員の積極的なプロジェクトチームへの参加・協力は勿論ですが、広くSMSCA傘下及び古道愛好家に参加を仰ぎ、埼玉支部の総力で取り組む所存です。

今、埼玉支部の課題は、若手会員の入会が少なく、高齢化による指導者・リーダー不足の様相が顕著になっています。勿論、傘下の各支部も同様の課題を抱えています。埼玉やま塾の開講で、若返りと減少の歯止めには効果がありますが、組織運営に関わる人材育成には、もう少し時間が必要です。

一方、登山界で活躍された諸先輩たちが多数在籍していますが、岩稜歩きや冬山登山に同行を求められても一緒に行動できない状況です。

従って、入会しても登山の知識や技術を学ぶ機会が少なくなっています。自分の登りたい登山ができなければ、組織に魅力を感じないからです。

埼玉支部に在籍することが会員にとって、付加価値を持った魅力ある組織に変えたい。課題は山積していますが、登りたい山が登れる登山者が増加すれば可能性が広がります。

そこで、日本山岳会主催の各種講習会への参加及び関連団体主催の技術習得（岩場・雪山訓練）等、個々人の登山技術と知識の向上を図ることで、安全登山の心構えを学び、次代を担う指導者やリーダーの育成環境の改善に繋がりたいと考えています。

埼玉支部は、安全登山を支える「仲間の安全・家族の安心」を掲げて取り組みます。山行委員会は、月例山行や平日山行の企画、等。会員の多様な指向に合わせた活動を展開を実施します。

安全登山委員会は、安全登山に関する情報の共有化及び緊急時の対処方法（登山届の管理、等）、等。具体的な実技訓練を通して個々人の知識・技術力の向上を図ります。自然保護委員会は、自然観察会、森づくり活動など、多様な公益事業活動を展開します。社会貢献委員会は、埼玉県障がい者スポーツ協会と共催のふれあい登山、清掃登山活動、等の公益事業活動に取り組みます。

広報委員会は、支部報発行及び支部ホームページの管理、オンライン会議導入に関する指導及び管理、等。迅速な情報の共有化が組織の活性化と新規会員増に貢献できるものと確信しております。